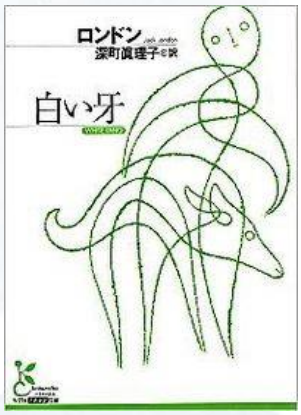
～洛西からの一読～

今回のテーマは「戦う力」

今回紹介する本の主人公は動物です。
一方は自分のため，一方は仲間のための戦いです。
ですが，どちらにも共通するのは「生きるための戦い」だということ。
ただ「生きるため」に真っすぐに挑み続ける物語です。



白い牙

ロンドン／著，深町　眞理子／訳　　光文社

狼の父と，狼と犬の血を引く母を持ち，北米の原野に生まれた狼の子は，母親と荒野で「食うか，食われるか」の厳しい日々を送っていたが，ある日インディアンたちと出会い母親と共に彼らの橇犬（そりいぬ）となる。狼の子はホワイト・ファング（白い牙）と名付けられ人間たちと暮らし始めるが，キャンプ中の犬たちは彼の中の「野性＝狼の血」を恐れ，彼に牙をむき攻撃をしかけてくる。やがて母親とも引き離され，たった一匹で戦う彼は，どの犬よりも俊敏で屈強な肉体と，狡猾で冷酷で獰猛な心を持つようになる。だが彼の体に流れる4分の1の犬の血は，主である人間に対してだけは忠実であった。この忠実さが彼を救うこともあれば，窮地に追い込むことにもなる。ホワイト・ファングの生きることへの貪欲さ。決して諦めず，相手を睨みつけ，四肢を腹の下に縮め，その足を大地に向け立ち続ける姿に圧倒されるのである。

冒険者たち　ガンバと１５ひきの仲間

斎藤　惇夫／作，薮内　正幸／画　　岩波書店

ドブネズミのガンバはちょっとした冒険気分で生まれて初めて海に出かけます。そこで出会った船乗りネズミたちと意気投合したところに，傷だらけでやせ細ったネズミが助けを求めてきます。彼の島のネズミたちがイタチに襲われ全滅の危機にさらされていると。ガンバは皆に助けに行こうと訴えますが…。
ネズミたちを襲うのは，ノロイと呼ばれる真っ白なイタチです。通常より大きく，他のイタチたちを従え，月の光を浴びて立つその姿は，ネズミにとって絶望そのものです。最初ガンバには，怖い物知らずで少し見栄っぱりで強がりな気持ちもありましたが，仲間を助けたいという真っすぐな気持ちは本物でした。彼の気持ちに応えるように集まった仲間たちと共に，絶体絶命の窮地を切り抜け，ノロイの恐ろしさに震えながらも，仲間を助けるという思いを強く抱き，ガンバはリーダーとして立ち向かっていくのです。